

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷西小学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷西小	同等	下回った	下回った	上回った	下回った	下回った
埼玉県	52.5	62.8	59.3	66.2	48.3	52.4

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷西小	5-B	5-A	6-A	5-C	5-C	5-A
埼玉県	5-B	6-B	7-C	4-A	5-B	6-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷西小		1	2		2	1
埼玉県		3	2		2	2

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの
 ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質 問 事 項	小4		小5		小6	
		深谷西小	埼玉県	深谷西小	埼玉県	深谷西小	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	94.5	90.6	87.7	88.5	89.1	83.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	76.7	78.6	72.6	77.0	80.5	77.4
	・はっきり挨拶をすることができる	84.9	81.5	82.2	82.0	82.9	84.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	79.5	77.8	86.3	80.7	91.5	87.4
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができている	84.9	85.5	91.8	86.9	87.8	89.4
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	63.0	54.2	54.8	49.2	65.9	51.5
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	58.8	52.8	49.3	54.1	53.7	53.9
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	45.2	33.7	20.5	23.7	20.7	19.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	75.3	78.9	80.8	78.0	76.8	79.2
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	74.0	73.5	68.5	70.5	73.2	66.5
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	84.9	78.6	78.0	74.1	68.3	69.0
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	72.6	75.9	80.8	79.8	78.1	70.3
	・話し合いや集めた資料から、自分の考えが変わったり、深まったりした	71.3	75.1	83.5	78.6	83.0	80.0
	・人の集まる場所では静かにし、姿勢をただ出すことができる	76.7	82.9	83.5	84.6	90.2	87.8
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	93.1	94.2	95.8	94.8	93.9	94.8
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	74.0	85.3	87.7	90.0	91.5	92.5
	・学級での生活は楽しい	95.9	94.5	95.9	92.8	92.7	92.3
	・家で1日あたり1時間以上インターネットを利用する	43.8	54.1	53.4	60.7	52.4	63.4

【質問紙分析】

- ・「脱いだはき物のかかとをそろえることができる」「勉強するときは、最初に計画を立ててから始める」の項目は、どの学年も県平均を上回った。「深谷の子6つのちかい」に関係するこの事項がより高い数値を示したことで、全校で取り組んでいることが身に付き始め、より関心をもって取り組んでいることがわかる。
- ・「学級での生活は楽しい」は4、5年生は約96%近くの数値を示し、楽しく学校生活を送れている様子がうかがえる。6年生に関しては、約93%と少し数値は落ちるものの、県平均は上回っている。
- ・学習におけるICT機器の活用は、効果的に行えているが、家庭でのインターネットの使用時間はどの学年も県平均より下回っており、計画的かつ、メリハリをつけたインターネット活用ができていることがわかる。
- ・本校の児童は、学習に前向きで、自己肯定感が高い傾向にある。教師からの肯定的な声かけによるものとも考えることもできる。

伸びが見られた学年・教科での取組

【学年】

- ・国語も算数も昨年度の学習レベルと比較すると、1～2ランクレベルをアップさせることができた。6年生では国語の伸びが、5年生では算数の伸びが大きく、努力の跡がうかがえた。
- ・4年生は、昨年度と比較はできないものの、国語は県平均と同等で、算数は県平均を上回り、良好な結果を残すことができた。

【国語】

- ・4年生では、比較的正答率が高かったのが言葉の特徴や使い方の区分であるが、県平均には届いていない。県平均を超えた区分は、話すこと・聞くこと・書くことであった。時間はかかっても、最後まであきらめず取り組んでいた。
- ・6年生では、情報の扱い方、我が国の言語文化の区分において伸びが見られた。

【算数】

- ・4年生では、4区分のうち3区分で県平均を超える伸びだった。数と計算・図形・測定では約7割の正答率だった。解答時間は県平均より短いことから、素早く解答を導き出せていることがわかる。
- ・5、6年生は、数と計算の区分が比較的正答率が高かったが、県平均を超えることはできていない。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・正答率の低さ⇒どの学年も、基礎基本の定着にむけて努力が必要である。
- ・解答に要する時間が短時間で不正解⇒問題に取り組む粘り強さを身に付ける必要がある。
- ・無回答の多さと問題を読み解く力の低さ⇒主体的に自分事として取り組む姿勢を身に付ける必要がある。

① ICT機器を活用し、個に合わせて進め、基礎基本の定着を図る。

- ② 教師が学習活動での見届けを行い、最後まで取り組む姿勢を身に付けさせる。あきらめず取り組んだら、その姿勢を認め、できたという自信につなげていく。教師からの価値付けを行う。
- ③ 学習活動内で、意図的な指名やグループ編成を行い、それぞれが考えて活動に臨まなければならないよう仕向けていく。